

夢を託して

武雄市開業 増田 純一

九州地方会は福岡県の口腔衛生知識向上のためだけに活動してきたのでしょうか。

20年前、福岡も小児のウ蝕洪水で悩まされていました。福岡歯科大学、九州大学、九州歯科大学の努力と地方会活動により、今日、福岡県の3歳児の口腔は、全国ベスト10に入るほどきれいになってきています。しかし、福岡県を除く九州7県は、全国ワースト10に入っているのです。特に、佐賀県は11年連続ワースト1でした。そして、今年は宮崎県にその座を譲ったのです。福岡から僅かの距離なのに、小児の口腔に対する意識の違いは20年の差があるように思われます。

私は、3年前に福岡から故郷の佐賀県武雄市に移転しました。福岡で仕事をしていた時は、佐賀の子ども達はウ蝕が多いらしい…という程度のものでしたが、実際、武雄の子ども達の口腔を診ることにより、その格差を実感しています。

今までの小児歯科は、都会中心の小児歯科ではなかったのでしょうか。これからは、地方の小児の口腔改善、地方の親達の口腔衛生知識の向上、地方の歯科医師の小児歯科に対する重要性の認識と技術の向上、さらには、行政、小児の健康に関わる人々へのアピール等に目を向けていただき、九州7県は一日も早くワースト10より脱却するよう、地方会に夢を託します。

地方会20年の歩みに寄せて

人吉市開業 松本 晋一

「あっという間に20年」、45歳以上の会員は皆さんそうお思いの事と存じます。振り返れば昭和57年に鹿児島大学に小児歯科が開設され、意気揚々と研究生として勉強を開始しました。そしてその頃この地方会も歩み始めました。私も血気盛ん、やる気一杯の時期で第1回、第3回と当院内の小児歯科の現状について小児歯科医療の充実の必要性を報告しています。それらの発表の中で個人開業医で出来ること：「小児歯科臨床の意義を患者や地域にアピールする」ことや、開業医どうしが協力して出来ること：「共同臨床の場を有する」「研修による各自の専門性を持つ」等を掲げた中からは各地に小児歯科の研究会が始まりました。

今、当時目標とした小児歯科の医療機能が、この20年でどれだけ達成出来たのかと問えば、約60点の達成度というところが個人的な感想です。今後も少子化傾向や小児歯科医の充実により質的、組織的、医療保健的に小児歯科は向上してゆくものと考えます。しかし、これからは患者さん側から、より高い要求や希望が出て来るはずで、従ってその要求以前に小児歯科側から、今後の小児歯科保健や医療のあるべき姿を地域にアピールしておくことが今後より重要な課題になるものと考えます。小児歯科広報の役割がより一層、重要視されることでしょう。